

職員の皆さんへ

いよいよ 11 月、今年も残すところ二か月となりました。

先月は平戸市制 10 周年を記念して行われた式典に、市の内外から数多くの方々のご参加をいただき、意義深い大きな節目を迎えることができました。

また私自身も市長に就任し丸六年の二期目を折り返すこととなりました。

こうした節目に自らの歩みを振り返り、絶えず反省や改善を繰り返しながら、些かも気を緩めることなく今後とも皆さんと共に心新たに前進してまいります。

いま市民の皆様が等しく気付いておられるように、このところ平戸市がメディアに取り上げられる機会が多くなりました。

特にテレビのニュースや地域特集番組などにおいて、ローカル放送のみならず全国放送として取り上げられていることは、単に「平戸の知名度」が上昇するだけでなく、常に遠くでふるさとを篤い思いで懐かしむ方々の共感を呼び、さらにふるさと納税の寄付者をはじめとする本市と何らかのかかわりを持っておられる方々にさらなる感動を共有していただいているものと確信しています。

また同時に市内においても、これまで「日本最西端の過疎の街」という自虐的なイメージから一転し、堂々と全国に話題を提供している事実が、自信と誇りにつながっていることが伝わってきます。

最早平戸市が全国的に注目される自治体となったことは既に衆目の認める事実であり、今後目指すべきは「選ばれ続ける自治体」に進化しなければならず、さらにこのことが我々平戸市政を預かる者の責任であり、今まさに平戸を愛し続けて下さる次代を担う多くの人材に集まって頂ける原動力になるものと考えます。

去る 24 日と 25 日の両日、横浜港で開催された「東京湾大感謝祭 2015」とタイアップし、「平戸市ふるさと納税大感謝祭～海と山のひらどマルシェ～」を実施いたしました。両日とも多くの方々を迎えることができ大変賑わいました。特に、政務ご多忙の中、菅義偉内閣官房長官がお越しになられ、平戸市の取組みと実績に対し、「都市部に住む人と地方との強い絆をより強固なものにしてほしい」と平戸モデルを高く評価し力強い応援のお言葉を頂戴しました。また各ブースをご案内させていただく際に平戸市の現状や変化について関心をよせられ、地元事業者の設備投資や雇用の現状など気軽にお尋ねになられ、励ましの言葉をかけてくださいました。この様子は私の出張中に放映された全国ニュースでも伝えられたと聞いています。

まさに平戸市のふるさと納税制度の取組みとその税財源の活用については、今後の地方創生モデルとして各方面からの注目を集めており、私たちは自信をもってこの貴重な「やらんば平戸応援基金」について市民の声を聴きながら有効に活用していかなければなりません。

また私は、先月 26 日から 30 日までの間、中村長崎県知事を先頭に「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の欧州展示についての現地視察でフランスを訪問いたしました。パリの中心部に位置する日仏文化会館に展示された平戸市の貴重な遺産は、その他の 11 の構成資産とともに注目を受けており、とりわけカクレキリシタンの潜伏時代というものへの関心は極めて高く、さらに平戸市が誇れる観光資源としての「寺院と教会の見える風景」に象徴される「宗教の寛容性・共生性」については欧州各国では、中東地域などで繰り返される民族や宗派間の戦いを超克するための重要な文化資源であるとの評価が寄せられているようです。

これまで平戸市は、国内においても「西の端っこで取り残されている」という辺境論的な自虐感が、なんとなくまちづくりに向かう力の結集を阻む徒労感につながっていましたが、私たちが想像する以上に受け継がれてきた価値は尊く、世界レベルの意義が見いだされようとしているのです。これは誇張ではありません。このことを私たちがしっかりと自覚し、多くの市民の皆様とともにかけがえのない固有の文化が世界的にも通用し新たな潮流となっていることを発信していかなければなりません。

また同時に、平戸市名誉大使である西本智実さんは 3 年連続、ヴァチカン国際音楽祭に招聘され、サンピエトロ大聖堂において「オラショ」を含むコンサートを実施されました。まさに名誉なことであり、これからもカトリック総本山であるヴァチカンと長崎・平戸の橋渡し役としてのご活躍を祈念するものであります。

並行して開催された恒例の「平戸くんち城下秋まつり」も多くのお客様で賑わったとお聞きしておりますし、何よりも貴重な文化資源である「平戸神楽」が亀岡神社の神楽殿で見事なお披露目ができることを嬉しく思います。

また昨日開催しました生月町博物館「島の館」開館 20 周年記念事業「キリシタンの世紀と世界遺産」も大変意義深く開催され、各方面の注目を集めていました。

いずれにしても、カクレキリシタンが現代社会においてもはや隠れる必要もなく(笑)、堂々とその貴重な文化資源を後世に伝える使命が新たに生まれくるように、平戸市の価値や産物も堂々と国内はもちろん世界に向けて積極的な発信をする時代の到来を実感した次第です。

結論として申し上げたいのは、もはや平戸市の官民協働の取組みは、その意義や価値が世代や国境を超え、堂々と次代につながる可能性を有しているということです。そうした認識を市民各位にも広く共有してもらい、ふるさと平戸を自信と誇りに満ちた自治体に発展させていきたいと強く望みます。

いよいよ年末の 12 月定例議会に向けての各種議案についての準備や新年度予算についての具体的な戦略立てが進められていることと思います。それぞれの立場において、市民の皆様のご期待に応えるにはどうしたらいいかということ念頭に置きながら与えられた職務を全うするべく全力を尽くしてもらいたいと思います。

職員皆様のご努力に期待します。

平成 27 年 11 月 2 日

平戸市長 黒 田 成 彦